

第 110 回 知財問題研究部会（I P 部会）

テーマ『特許調査の基礎から生成 AI 活用まで』

日時：2025 年 7 月 4 日（金）13：30～16：30

場所：オンライン（WEB 会議ツール「Zoom」使用）

講師：スマートワークス株式会社 代表取締役 酒井美里 氏

第 110 回知財問題研究部会では、スマートワークス株式会社の代表取締役である酒井美里氏を講師にお招きし、「特許調査の基礎から生成 AI の活用まで」をテーマにご講演いただきました。

1) 内容

前半では、特許データベースの性質や「Google 検索」との違い、全文検索の注意点、適合率・再現率の理解が重要であると解説されました。まず、「1つの部分集合」においては適合率と再現率の一方しか上げられないという、データベースの特性を認識することが効率的な検索式作成の出発点となります。「雑な検索」（関連するキーワードや分類記号をすべて合計するような検索）は、件数が多いだけで検索効率が低いことを理解しました。これに対し、適合率が高い部分集合を複数作成し、それらを合算して再現率を上げる「よくばりセット」戦略が、効率的かつ質の高い検索結果を得るための有効な方法であることを学びました。

後半では、生成 AI が特許調査業務に与える影響について説明されました。まず、生成 AI はコンテンツ生成に特化しており、学習・推論・分析を行う汎用 AI や、自己学習を伴わないテキストマイニングや OCR とは異なるという整理がされました。そして生成 AI の活用においては、効果的なプロンプト（指示）の作成が有用な出力を得るための鍵となります。例えば、複雑な「逆問題」（結果から原因を推定する問題）を生成 AI に丸投げすることはミスにつながりやすいため、代わりに、タスクを細分化し、段階的な「順問題」として AI に指示することで、より正確な結果が得られることを学びました。生成 AI への指示では、「誰が」「何を」「どの順番で」を明確に伝えること、特に「主語」を省略せずに記載することが、AI が質問を正確に理解し、再現性のある出力を得る上で非常に重要であると理解しました。

2) 所感

本講演を通じて、特許調査の基本的なアプローチから、生成 AI という最新技術の具体的な活用法とその限界まで、体系的に学ぶことができました。特に、AI の得意な領域と苦手な領域を明確にし、人間と AI が協調するハイブリッド運用の重要性を強く認識しました。生成 AI を「万能なツール」として丸投げするのではなく、「順問題化」や「主語の明示」といった適切なプロンプトを用いることで、その能力を最大限に引き出すことができるという具体的な知見は、今後の実務に大いに役立つものです。これにより、特許調査の効率化だけでなく、知財担当者のスキルアップの方向性も明確になりました。

～IP 部会委員代表～